



平成26年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月12日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 梅の花

コード番号 7604 URL <http://www.umenohana.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 梅野 重俊

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理本部長兼経理部長

(氏名) 上村 正幸

TEL 0942-38-3440

四半期報告書提出予定日 平成26年8月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年9月期第3四半期の連結業績(平成25年10月1日～平成26年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年9月期第3四半期	22,743	0.0	723	51.0	673	100.9	427	296.6
25年9月期第3四半期	22,736	△1.3	478	△20.6	335	△41.9	107	△71.5

(注) 包括利益 26年9月期第3四半期 426百万円 (205.4%) 25年9月期第3四半期 139百万円 (△62.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年9月期第3四半期	58.14	49.02
25年9月期第3四半期	14.83	12.96

(注) 当社は、平成25年4月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年9月期第3四半期	20,105	7,038	35.0	957.08
25年9月期	19,002	6,648	35.0	904.05

(参考) 自己資本 26年9月期第3四半期 7,038百万円 25年9月期 6,648百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年9月期	—	0.00	—	5.00	—
26年9月期	—	0.00	—	—	—
26年9月期(予想)	—	—	—	5.00	5.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

当社は、平成25年4月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。

3. 平成26年9月期の連結業績予想(平成25年10月1日～平成26年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,002	0.7	505	34.1	417	101.4	288	593.3	39.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年9月期3Q	7,489,200 株	25年9月期	7,489,200 株
② 期末自己株式数	26年9月期3Q	135,504 株	25年9月期	135,468 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年9月期3Q	7,353,706 株	25年9月期3Q	7,267,366 株

(注) 当社は、平成25年4月1日を効力発生日として、普通株式1株を100株に分割し、1単元の株式の数を100株とする単元株制度を採用しております。これに伴い、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して期中平均株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、平成26年8月7日付にて、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動により弱さが残るものの、緩やかに回復していくことが期待されるといわれる中で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは「すばらしいおもてなしをする為に、たくさんのお客様と会話をしコミュニケーションを図ります。お客様の顔と名前を覚えます」を経営方針として、お客様に感極まるサービスを提供できるように取り組んでまいりました。

利益率向上策といたしましては、物流システムの見直しによるコスト削減及び広告宣伝費の抑制、ロコミによる営業及び外回り営業の強化による売上拡大、さらに店内営業の強化としてお客様とコミュニケーションを図ることにより、ご来店頻度を高めることができるよう取り組んでおります。

出店につきましては、従来のスクラップアンドビルドに加え未出店エリアへの展開を視野に入れて情報収集を行い、今後の積極的な出店に繋げてまいります。

店舗の出店及び閉店につきましては、外食事業7店舗出店及び4店舗閉店、テイクアウト事業3店舗出店及び3店舗閉店により、当第3四半期連結会計期間末の店舗数は、262店舗となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高227億43百万円（前年同期比100.0%）、営業利益7億23百万円（前年同期比151.0%）、経常利益6億73百万円（前年同期比200.9%）、四半期純利益4億27百万円（前年同期比396.6%）となりました。

なお、セグメント別の業績は次のとおりであります。

(外食事業)

外食事業におきましては、平日に曜日限定のイベントを行い売上アップを図るとともに、うなぎ弁当等のテイクアウト商品にも力を入れ売上の底上げに注力いたしました。また、ご来店されたお客様への挨拶を徹底しお客様の顔と名前を覚えコミュニケーションを図ることにより、お1人お1人に応じたきめ細かいサービスを提供することでご来店頻度の向上に努めております。

経費の削減につきましては、人件費の適正化に取り組み、店内営業活動を強化することによって広告宣伝費を抑制しております。

出店及び閉店につきましては、梅の花は5店舗出店及び2店舗閉店し71店舗、チャイナ梅の花3店舗、かにしげ3店舗、その他店舗は2店舗出店及び2店舗閉店し5店舗となりました。従いまして、外食事業の全店舗数は82店舗、売上高は141億11百万円（前年同期比97.5%）、セグメント利益9億95百万円（前年同期比111.0%）となりました。

(テイクアウト事業)

古市庵テイクアウト店におきましては、教育担当者の訪店による指導や、接客・販売コンテストの開催等により顧客満足度の向上に注力しております。また、創業祭や母の日、父の日などのイベント等で購買意欲の向上を図るとともに、冷凍棒寿司等、将来に備えた新商品の開発も行っております。

梅の花テイクアウト店におきましては、お買い上げ頻度を向上させるために、地域の食材を使った地域限定の商品を充実させるとともに、弁当類の取り扱い品目を増やすことで売上拡大を図りました。また、添加物を控え、産地のはっきりした天然由来の食材を使うことで旬の素材を味わっていただける、季節感あふれる商品開発に注力しております。

経費の削減につきましては、人員配置や勤務シフトを見直すことで、サービス水準を落とすことなく人件費を削減し、利益率の向上に努めております。

出店及び閉店につきましては、古市庵テイクアウト店は1店舗出店及び2店舗閉店し132店舗、梅の花テイクアウト店は1店舗出店及び1店舗閉店し38店舗、その他店舗は1店舗出店し、10店舗となりました。

従いまして、テイクアウト事業の全店舗数は180店舗、売上高は86億31百万円（前年同期比104.5%）、セグメント利益3億52百万円（前年同期比156.5%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、前連結会計年度末と比べ11億2百万円増加し、201億5百万円となりました。これは主に、現金及び預金が2億50百万円増加、設備投資により有形固定資産合計が8億25百万円増加したことによるものであります。

負債合計につきましては、前連結会計年度末と比べ7億12百万円増加し、130億67百万円となりました。これは主に借入金の総額が6億28百万円増加したことによるものであります。

純資産につきましては、前連結会計年度末と比べ、3億89百万円増加し、70億38百万円となりました。これは主に、利益剰余金が3億90百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成25年11月14日の決算短信で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,985,089	2,235,624
売掛金	1,243,290	1,276,318
商品及び製品	78,822	73,315
原材料及び貯蔵品	178,739	194,236
繰延税金資産	220,204	189,826
その他	497,143	467,962
貸倒引当金	△1,558	△1,558
流動資産合計	4,201,731	4,435,725
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,725,713	7,286,779
機械装置及び運搬具(純額)	204,276	242,162
土地	4,631,718	4,934,273
建設仮勘定	162,070	31,011
その他(純額)	535,314	590,030
有形固定資産合計	12,259,094	13,084,257
無形固定資産		
のれん	462,529	375,845
その他	71,453	96,416
無形固定資産合計	533,983	472,262
投資その他の資産		
投資有価証券	86,796	88,172
長期貸付金	183,681	183,502
前払年金費用	—	18,251
繰延税金資産	25,339	13,670
敷金及び保証金	1,675,940	1,756,290
その他	139,337	155,882
貸倒引当金	△103,023	△102,782
投資その他の資産合計	2,008,071	2,112,986
固定資産合計	14,801,149	15,669,506
資産合計	19,002,880	20,105,231

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	590,446	589,327
短期借入金	2,400,000	4,200,000
1年内返済予定の長期借入金	1,515,232	1,209,727
未払金	1,157,643	1,072,175
未払法人税等	48,750	135,900
賞与引当金	231,600	144,000
資産除去債務	—	24,748
ポイント引当金	166,989	180,872
その他	527,781	749,288
流動負債合計	6,638,443	8,306,039
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	2,259,675	2,259,675
長期借入金	2,609,732	1,743,297
退職給付引当金	83,200	32,633
資産除去債務	638,193	644,862
その他	125,492	80,665
固定負債合計	5,716,293	4,761,134
負債合計	12,354,736	13,067,174
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,123,177	4,123,177
資本剰余金	3,500,166	3,500,166
利益剰余金	△742,311	△351,507
自己株式	△238,147	△238,218
株主資本合計	6,642,885	7,033,618
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,984	9,165
為替換算調整勘定	△4,725	△4,725
その他の包括利益累計額合計	5,258	4,439
純資産合計	6,648,143	7,038,057
負債純資産合計	19,002,880	20,105,231

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年10月1日 至 平成26年6月30日)
売上高	22,736,545	22,743,300
売上原価	6,715,307	6,752,453
売上総利益	16,021,238	15,990,846
販売費及び一般管理費	15,542,435	15,267,670
営業利益	478,802	723,175
営業外収益		
受取利息	3,119	3,036
受取配当金	1,794	932
受取手数料	13,879	19,914
雑収入	21,965	20,438
営業外収益合計	40,758	44,322
営業外費用		
支払利息	62,844	48,843
株式交付費	34,651	—
社債発行費	32,111	—
雑損失	54,829	45,328
営業外費用合計	184,436	94,172
経常利益	335,125	673,325
特別損失		
固定資産除売却損	83,325	51,167
減損損失	10,073	—
特別損失合計	93,398	51,167
税金等調整前四半期純利益	241,727	622,157
法人税、住民税及び事業税	44,508	151,506
法人税等調整額	89,409	43,078
法人税等合計	133,917	194,584
少数株主損益調整前四半期純利益	107,809	427,573
四半期純利益	107,809	427,573

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年10月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	107,809	427,573
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	31,930	△819
その他の包括利益合計	31,930	△819
四半期包括利益	139,739	426,753
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	139,739	426,753
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成25年11月5日開催の取締役会において、平成25年12月20日開催の定時株主総会に、資本準備金の額の減少を付議することを決議し、同株主総会において承認可決されました。

1. 資本準備金の額の減少の目的

今後の財務戦略上の柔軟性および機動性を確保するため、資本準備金の額を減少いたしました。

2. 資本準備金の額の減少の要領

会社法第448条第1項の規定に基づき、資本準備金3,500,166千円のうち1,500,000千円を減少させ、その他資本剰余金に減少額の全額を振り替えました。

減少後の資本準備金の額は、2,000,166千円となりました。

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成24年10月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,477,821	8,258,724	22,736,545	—	22,736,545
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,760	25,259	32,020	△32,020	—
計	14,484,582	8,283,984	22,768,566	△32,020	22,736,545
セグメント利益	896,515	225,245	1,121,760	△642,957	478,802

(注) 1 セグメント利益の調整額△642,957千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成25年10月1日至平成26年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	外食事業	テイクアウト 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,111,753	8,631,546	22,743,300	—	22,743,300
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,020	25,934	31,955	△31,955	—
計	14,117,773	8,657,481	22,775,255	△31,955	22,743,300
セグメント利益	995,321	352,430	1,347,752	△624,576	723,175

(注) 1 セグメント利益の調整額△624,576千円は各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

なお、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント利益の測定方法の変更)

第1四半期連結累計期間より経営管理手法の変更に伴い、各事業セグメントに対する費用の配賦基準の見直しを行っております。これは、セグメント別損益の実態をより正確に表示するためであります。

なお、前第3四半期連結累計期間の報告セグメントは、見直後の配賦基準に基づき作成したものを開示しております。

(重要な後発事象)

当社は、平成26年8月4日開催の取締役会において、株式会社古市庵（以下、「古市庵」といいます。）を完全子会社とする株式交換（以下、「本株式交換」といいます。）を行うことを決議し、古市庵との間で株式交換契約（以下、「本株式交換契約」といいます。）を締結しました。

本株式交換につきまして、当社は、会社法第796条第3項の規定に基づく簡易株式交換の手続きにより、当社株主総会による承認を受けず、また、古市庵は平成26年9月1日に開催される予定の臨時株主総会において自己が当事者となる本株式交換契約の承認を受けたうえで、平成26年10月1日を効力発生日として行う予定であります。

なお、本株式交換は連結子会社を完全子会社化する簡易株式交換であります。

1. 本株式交換による完全子会社化の目的

当社は、連結子会社である古市庵を本株式交換により完全子会社とすることにより、グループ運営の機動性を高め、意思決定を迅速に行い、効率的な経営体制の確立を図ることにより企業価値向上を目指してまいります。

2. 本株式交換の要旨

(1) 本株式交換の日程

取締役会決議（両社）	平成26年8月4日
契約締結日（両社）	平成26年8月4日
株式交換承認臨時株主総会（古市庵）	平成26年9月1日（予定）
株式交換の予定日（効力発生日）	平成26年10月1日（予定）

(注) 当社は、本株式交換については、会社法第796条第3項の規定に基づく簡易株式交換の手続きにより、株主総会の承認を受けずに行う予定であります。

(2) 本株式交換の方式

当社を株式交換完全親会社、古市庵を株式交換完全子会社とする株式交換であります。

(3) 本株式交換に係る割当ての内容

	当社 (株式交換完全親会社)	古市庵 (株式交換完全子会社)
株式交換に係る 交換比率	1	0.017

(注1) 本株式交換により交付する株式

当社は、本株式交換により交付する当社株式には当社が保有する自己株式24,055株を充当する予定であり、新株式の発行は行わない予定であります。なお、当社が保有する古市庵株式3,596,320株については、割当ては行いません。

(注2) 単元未満株式の取り扱い

本株式交換に伴い、当社の単元未満株式（1単元（100株）に満たない数の株式）を保有する株主が生じることが見込まれますが、当社の単元未満株式を保有することとなる株主の皆様におかれましては、会社法第192条第1項の定めに基づき、当社に対し自己の保有する単元未満株式の買取りを請求することができます。

(注3) 1株に満たない端数の処理

本株式交換により交付する株式に1株に満たない端数がある場合、当社は会社法第234条その他関係法令の規定に基づく処理を行います。

(4) 本株式交換に伴う新株予約権及び新株予約権付社債に関する取り扱い

古市庵が発行している新株予約権及び新株予約権付社債はありません。

3. 本株式交換に係る割当ての内容の算定の考え方

(1) 割当内容の根拠及び理由

当社及び古市庵は、第三者機関である株式会社エフエーエスから提出を受けた株式交換比率の算定結果及び両社の財務状況、業績動向、株価動向等を参考に、両者間で交渉・協議を行った結果、上記2. (3)記載の株式交換比率が妥当であるとの判断により合意いたしました。なお、株式交換比率は、その前提となる諸条件について重大な変更が生じた場合、両者間で協議のうえ変更することがあります。

(2) 算定に関する事項

株式会社エフエーエスは、当社の株式価値については東京証券取引所市場第二部に上場しており、市場株価が存在していることから市場株価法（平成26年6月30日を算定基準日とし、東京証券取引所における算定基準日の終値及び同日から遡る1ヶ月、3ヶ月及び6ヶ月の各期間の日次の終値の平均値）に加えて、将来の事業活動の状況を算定に反映する目的から、将来の収益に基づき、将来生み出すと見込まれるフリー・キャッシュ・フローを一定の割引率で現在価値に割り引くことにより株式価値を算出する評価方法であるディスカунテッド・キャッシュフロー法（以下、「DCF法」といいます。）による算定を行いました。なお、DCF法による算定において前提とした、当社の利益計画には、大幅な増減益を見込んでいる事業年度はありません。また、平成27年12月3日に満期償還日を迎える「株式会社梅の花第1回無担保転換社債型新株予約権付社債」は新株予約権が行使されると仮定しております。

採用手法	算定結果 (円/株)
市場株価法	2,055～2,090
DCF法	1,924～2,142

古市庵の株式価値については非上場会社であることを勘案し、将来の事業活動の状況を評価に反映させるためにDCF法を採用し算定を行いました。この算定にあたっては、古市庵が策定した事業計画に基づくフリー・キャッシュ・フローに基づいて算定を行っております。なお、DCF法による算定において前提とした、古市庵の利益計画には、大幅な増減益を見込んでいる事業年度はありません。

採用手法	算定結果 (円/株)
DCF法	16～35

以上の結果に基づいた場合（当社につきましては、市場株価法及びDCF法の2種類、古市庵につきましては、DCF法の算定方法を採用した場合）、当社株価についての算定手法による算定結果が重複するレンジは、1株あたり2,055円～2,090円であり、当該レンジ内の株価について理論的に妥当な価格であると判断することができます。当社株価について当該レンジに基づいた結果、採用し得る合理的な株式交換比率の範囲（古市庵の1株当たりの株式価値を1とする。）は以下のとおりとなります。

採用手法	株式交換比率
市場株価法 DCF法	0.008～0.017

(3) 公正性を担保するための措置

当社は、本株式交換の交換比率の算定にあたり、公平性・妥当性を確保するため、独立した第三者機関である株式会社エフエーエスに対して当社及び古市庵の株式価値の算定を依頼いたしました。

なお、上記第三者機関は、当社及び古市庵の関連当事者（連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則第15条の4、財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則第8条第17項）ではありません。

4. 本株式交換の当事会社の概要（平成26年3月31日現在）

	株式交換完全親会社	株式交換完全子会社
(1) 名称	株式会社 梅の花	株式会社 古市庵
(2) 所在地	福岡県久留米市天神町146番地	福岡県久留米市天神町146番地
(3) 代表者の役職・氏名	代表取締役社長 梅野 重俊	代表取締役社長 西浜 英彦
(4) 事業内容	飲食店及びテイクアウト店の 経営指導、食材等の供給	百貨店等で寿司を中心に販売する 「古市庵」の店舗経営
(5) 資本金	4,123百万円	10百万円
(6) 設立年月日	昭和54年10月1日	昭和52年6月13日
(7) 発行済株式数	7,489,200株	5,011,300株
(8) 決算期	9月30日	9月30日
(9) 大株主及び持株比率	(有)梅野企画 16.05% 梅野重俊 8.00% 梅野久美恵 5.04% エイチ・ツー・オー リテイリング㈱ 5.00% ㈱梅の花 1.81%	㈱梅の花 71.76% 平田輝章 4.29% 吉川敬三 2.52% 藤田基 2.39% 辰巳慶二 2.25%
(10) 直近事業年度の経営成績及び財政状態		
決算期	平成25年9月期（連結）	平成25年9月期
純資産	6,648百万円	△151百万円
総資産	19,002百万円	1,989百万円
1株当たり純資産	904.05円	△30.30円
売上高	29,780百万円	8,559百万円
営業利益	377百万円	192百万円
経常利益	207百万円	171百万円
当期純利益	41百万円	133百万円
1株当たり当期純利益	5.71円	26.60円

5. 本株式交換後の状況

本株式交換による当社の商号、本店所在地、代表者、事業内容、資本金、決算期について変更はありません。

6. 今後の見通し

本株式交換が当社の業績に与える影響は軽微であります。

（参考）当期連結業績予想（平成25年11月14日公表分）及び前期連結実績

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
当期連結業績予想 （平成26年9月期）	30,002	505	417	288
前期連結実績 （平成25年9月期）	29,780	377	207	41